

地域総合診療医学

ナンバリング

M4-S1-D13

責任者・コーディネーター	総合診療医学講座 下沖 収 教授				
担当講座・学科（分野）	総合診療医学講座、地域医療学分野、医療安全学講座				
担当教員	下沖 収 教授、伊藤 智範 教授、肥田 圭介 教授、井上 和男 非常勤講師、山田 哲也 助教				
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義	8コマ	16.0時間
期間	前期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	0コマ	0.0時間

・学習方針（講義概要等）

我が国の医療は臓器別専門医療の発展の上に築かれてきたことは紛れもない事実である。しかし、患者は生物としての側面の他に心理・社会的側面を持ち合わせた全人的存在であり、家族・地域社会の中で生きる存在でもある。患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、ニーズに応じた柔軟な診療により、個人と社会のウェルビーイングを実現することを目指すのが総合診療医学である。我が国では、超高齢社会を迎えて医療提供体制の急激な変化、医療資源の地域・診療科偏在、社会保障費の財源問題などの難題を抱えており、地域における総合的医療の実践が社会的ニーズとなりつつある。本科目では、総合診療医学概論に加え、地域医療・家庭医療におけるプライマリ・ケア、地域総合診療における学びと研究の実践、医療面接・臨床推論、医療安全について学び、地域総合診療を支える考え方と実践の概要を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

本科目を履修することで、我が国の諸々の医療課題の中における総合診療、地域医療、家庭医療の役割について概説できるようになる。加えて、地域医療で欠かせない包括的ケア・多職種チーム医療、地域医療の実践に根ざした研究と学びの手法について理解し述べるができるようになる。総合診療の実践に必要な医療面接と臨床推論について概説できるようになる。さらに、適切な医療提供において重要な医療安全の考え方は、安全で質の高い医療の実践に欠かせない普遍的価値観（プロフェSSIONナリズム）につながることを概説できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	我が国の医療背景をもとに総合診療に対する社会的ニーズを説明できる。
2	我が国の地域医療の歴史と課題、地域医療を支える制度や資源、地域包括ケアについて説明できる。
3	プライマリ・ケア、家庭医療の果たす役割について説明できる。
4	地域医療現場からの学びや研究の実践について自らの考えを述べるができる。
5	総合診療に欠かせない医療面接の手法と臨床推論の考え方について概説できる。
6	医療安全、医療事故の基本概念と実践について説明できる。

・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	5/12(月)	1	総合診療医学講座	下沖 収 教授	総合診療医学概論	1
講義	5/12(月)	2	総合診療医学講座	下沖 収 教授	プライマリ・ケアと家庭医療学	3
講義	5/15(木)	1	総合診療医学講座	井上 和男 非常勤講師	教員の実体験に基づくReal case based learning	4
講義	5/15(木)	2	総合診療医学講座	井上 和男 非常勤講師	地域医療の現場で行うPractice based research	4

講義	5/16(金)	2	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	地域医療学入門	2
講義	5/19(月)	2	医療安全学講座	肥田 圭介 教授	医療安全について	6
講義	5/26(月)	1	総合診療医学講座	山田 哲也 助教	全人的アプローチと医療面接	5
講義	5/26(月)	2	総合診療医学講座	山田 哲也 助教	臨床推論を学ぶ	5

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	総合診療医の果たす役割（スーパー総合医）	専門編集：名郷直樹	中山書店	2019
参考書	地域医療学入門	日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会合同編集委員会	診断と治療社	2019
参考書	地域医療テキスト	監修：自治医科大学	医学書院	2009
推薦図書	医療安全学	森本 剛	篠原出版新社	2010
参考書	岩手医科大学 医療安全対策マニュアル（第15版）	医療安全管理部	岩手医科大学	

・成績評価方法

【総括評価】 MCQ形式の進級試験（満点100%）で評価し、60%以上の得点をもって合格とする。 【形成的評価】 講義内で地域医療実践からの学び、地域医療で想起されるリサーチクエスチョンを学生に考えさせwebレポートとして提出。その結果を学生にポジティブなフィードバックとすることで、地域医療志向性と学習意欲向上につなげる。
--

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低60分を要する。授業後の課題や復習のためには最低60分は要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。 講義資料はWebclassで配信する。 本科目では、事前事後学修以外に540分の自己学修を要す。 当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。
--

・教育資源

講義室、PC、プレゼンテーションソフトウェア、参考書

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン VAIO Pro13mk2 一式	1	講義資料作成用